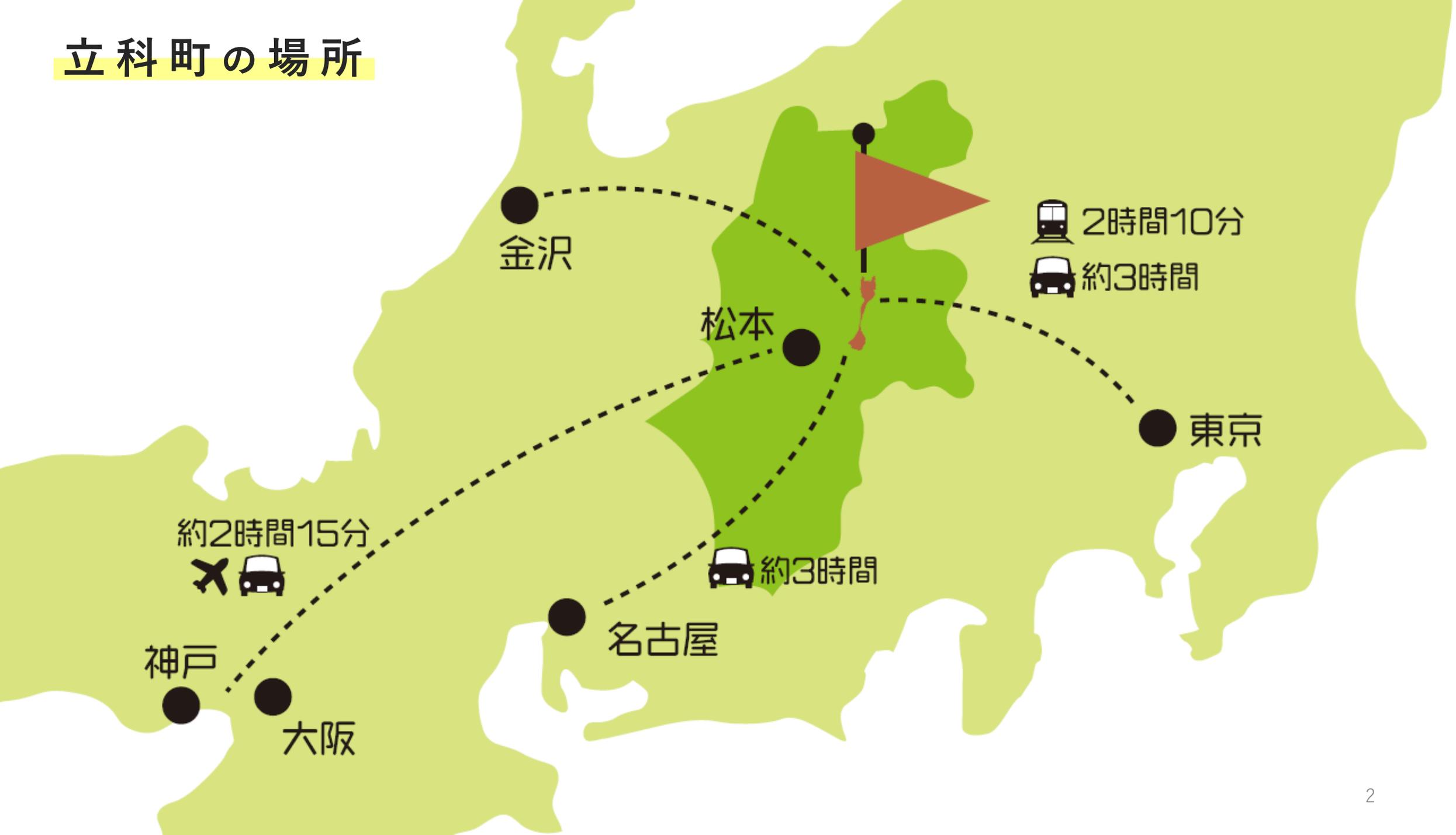


「働く、を変える」 社会福祉型テレワークの実装

長野県立科町 企画課 地域振興係 上前知洋



立科町の場所



立科町の場所

里エリア



「立科 ≡ 蓼科」

高原エリア



立科町の課題整理

【課題①】

人口減少による衰退局面
(特に生産年齢人口)

DATA ~立科町人口ビジョン~

2045年の人口 2015年比 **36%減少**

10代後半~20代前半の人口 **30人減少/年**

【課題②】

U・Iターン希望者が望む職種と
当町の産業構造のミスマッチ

DATA ~RESAS~

1・2次産業比率が **54%** (全国平均32%、県平均41.0%)

DATA ~H28住民調査~

「テレワークセンターで働いてみたい」 **41%** (町民63世帯)

DATA ~茨城・宮崎県調査 H27~

U・Iターン希望者が希む職種上位 情報・サービス・公務

地方創生へ!

キャリアを分断せずに働ける職場づくり & 環境づくり

事業のビジョン

職場に通えない

フルタイムで働けない

社会福祉型テレワークが実装された町へ

多様な人たち（子育て世代、障がい者、高齢者、ひきこもり等）が町のあらゆる場所でICTを活用して仕事を通じた社会参加を果たす仕組みが動いている状態



住民ワーカーによるBPO案件受託事業

住民の募集

育成・研修

営業活動

業務受注

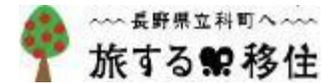
実施・納品

シナジーの発生

フィールド >
地域課題 >
人材提供 >

< 実証実験
< 事業協力
< 業務発注

関係性の構築



移住の総合支援



貸SOの設置運営



テレワーク移住のおためし支援



新しい働き方
実践者・企業の誘致

雇用創出型テレワーク

どんな住民も町内で柔軟に働くことを応援

企業進出型テレワーク

都会で働く方々が立科町で働くことを応援

雇用創出型テレワークの取組内容

① 住民ワーカーの募集・育成



- ・説明会の随時開催
- ・スキルアップ研修の実施

② 就労環境の整備



- ・テレワークセンターの設置
- ・備品、業務システムの提供

③ 業務受注に向けた営業活動



- ・住民ワーカーによる営業チームを発足
- ・新規顧客開拓
- ・広報活動の展開

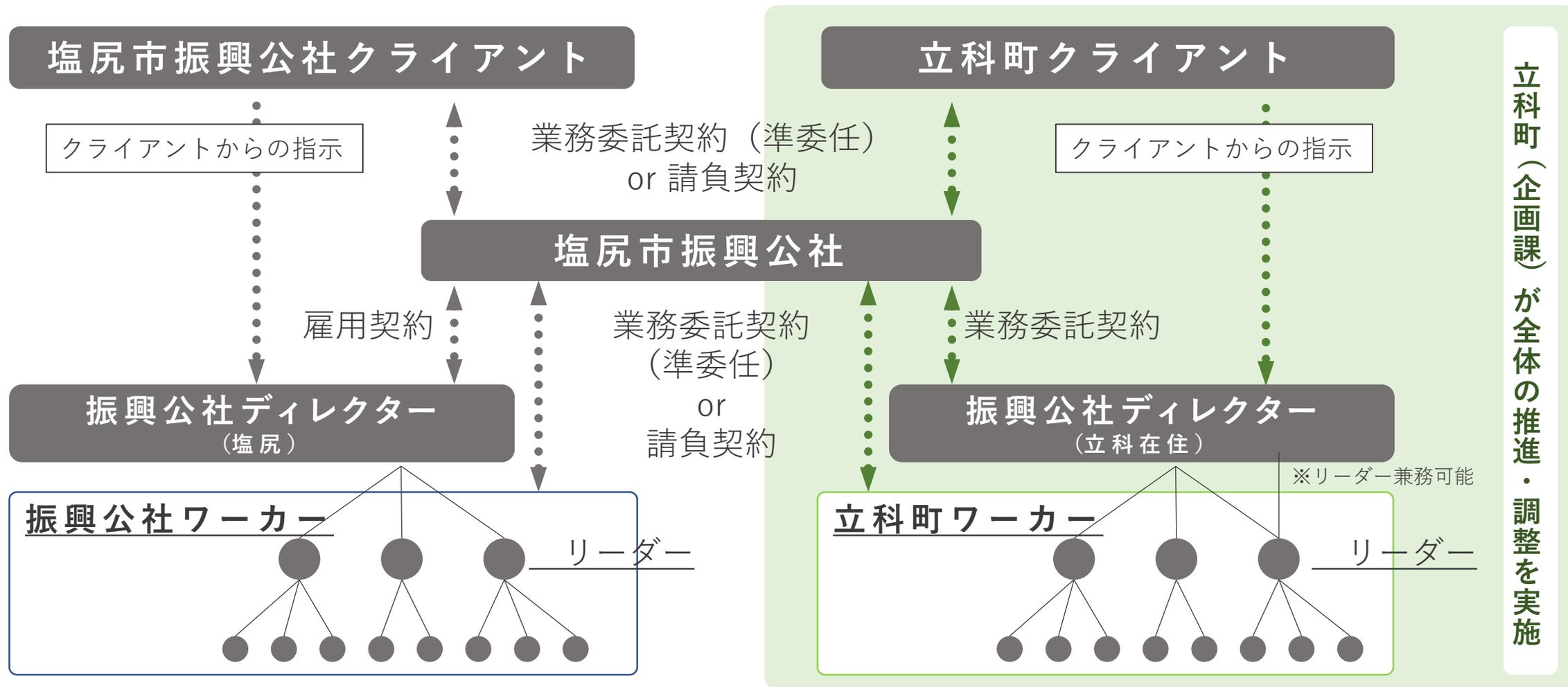
④ 受注業務の実施と管理 (塩尻市振興公社)



- ・業務契約・支払業務等の事務
- ・業務担当チームの構築
- ・業務の進捗管理、品質管理

人材育成から営業、契約、納品まで一貫して実施

雇用創出型テレワーク自治体間連携スキーム



立科町（企画課）が全体の推進・調整を実施

※立科町のクライアントは、塩尻市振興公社と業務委託契約及び秘密保持契約等を締結（立科町に法人格がないため）

※立科町のワーカーは、塩尻市振興公社のワーカーマネジメントシステムに登録し、秘密保持契約を締結したうえで業務実施

※ワーカーは全員【個人事業主】となり、報酬は塩尻市振興公社から支払われる

雇用創出型テレワークの主な取組内容

2017

2018

2019

2020

2021

2022

地方創生推進交付金【どこでもだれでもテレワーク推進事業】

地方創生推進交付金【小規模自治体の多様な働き方モデル創出事業】

総務省ふるテレ推進事業

Vision

社会福祉型テレワークの実装

多様な人たち（子育て世代、障がい者、高齢者、ひきこもり等）が町のあらゆる場所でICTを活用して仕事を通じた社会参加を果たす仕組みを実装する

おおむね達成！



数名のメンバーで
模擬業務開始



本格的にスキル研修を開始
塩尻市振興公社から
業務受注開始
コンソーシアム設立
(2024.3まで)



テレワークセンター稼働
業務受注が本格稼働
サテライトオフィス設置
→(株)アシストビジョン
(蓼科高校卒業生を採用)



営業チーム発足
・新規顧客の開拓
・主催セミナー開催
・広報ツール作成
専用Webサイト運用開始



阿部 長野県知事視察
スタイルブック創刊
ディレクター増員
立科WORKTRIP利用者から
業務受注開始



自治体広域連携の開始
信越総通から表彰
模擬業務実施し
ワーカー掘り起こし



ママのための
新しい働き方セミナー



地方が生き残るための
テレワークセミナー



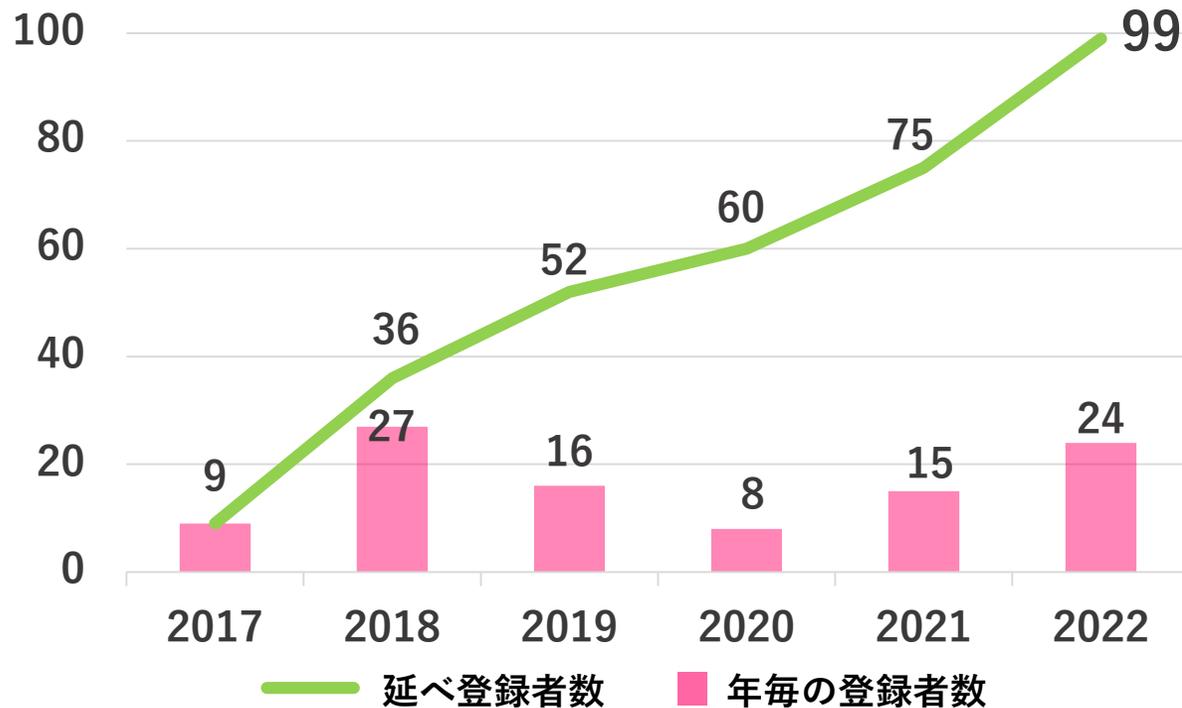
人口7,000人の町が
本気で取り組む働き方改革



住民ワーカーのデータ (2023年2月時点)

登録数 78名 (女性63名、男性15名) ※延べ99名

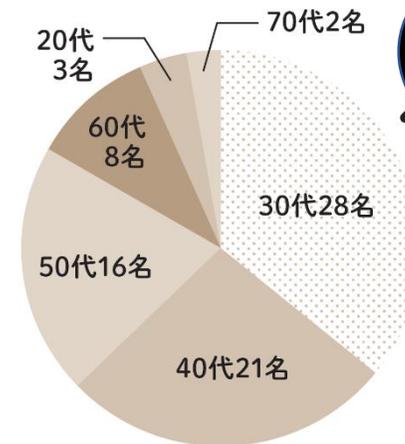
登録者数の推移



※登録者延べ99名のうち21名が退会

(退会理由) 就職のため 12名、転居 2名
その他 7名 (高齢、多忙など)

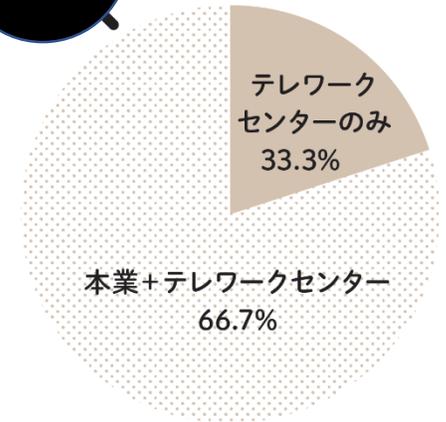
【町人口の1%が登録】



【多くが子育て中の方】

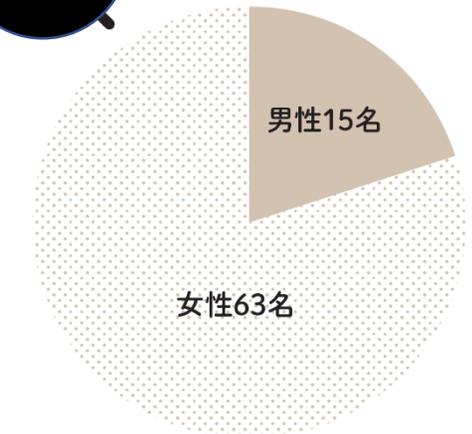
年代別

働き方



【一人多役の働き方】

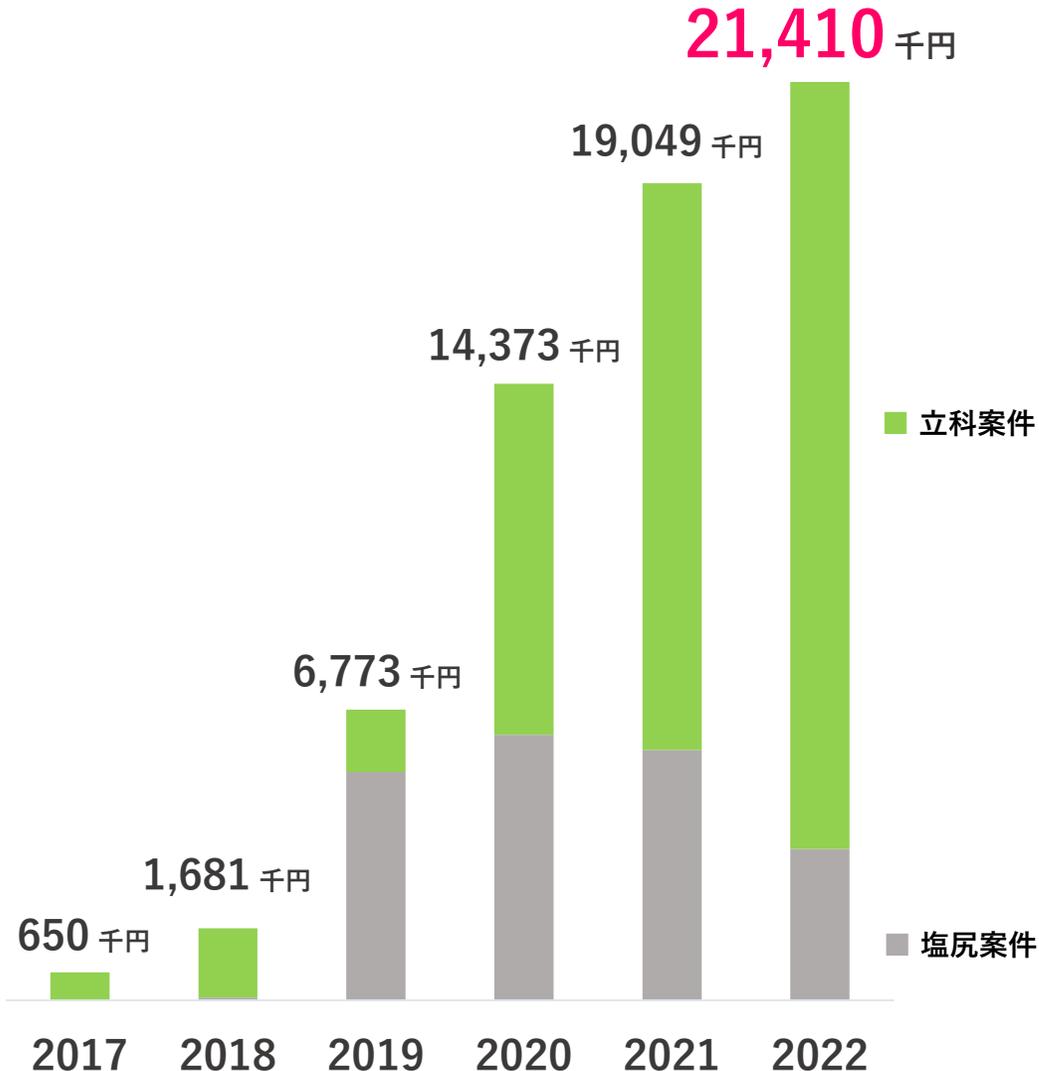
男女比



【多くが子育て中の方】

受注金額と受注業務の内容

受注金額



受注業務の内容

主な受注先	県内外事業者：上場企業を含む全国の企業 町内事業者：建設業、農家、個人事業主 等 自治体等：立科町、社会福祉協議会、塩尻市振興公社
主な業務内容 (一例)	バックオフィス支援：社内経理業務（支払、請求）、 購買業務、福利厚生施設管理業務 等 アノテーション業務：AIの教師データ入力 営業支援：営業資料作成・発送、電話営業 等 クリエイティブ業務：ウェブページ作成、誌面デザイン 記事ライティング：記事執筆、取材、写真撮影 議事録の作成：音声データから文章起こし データ入力：名刺・会員名簿・顧客リスト作成 DM発送業務：発送先リスト作成、DM封入 等 郵便物の作成と発送：宛名作成、発送物の印刷、封入 等

事業のビジョン

フルタイムで働けない

職場に通えない

社会福祉型テレワークが実装された町へ

多様な人たち（子育て世代、障がい者、高齢者、ひきこもり等）が町のあらゆる場所でICTを活用して仕事を通じた社会参加を果たす仕組みが動いている状態



住民ワーカーによるBPO案件受託事業

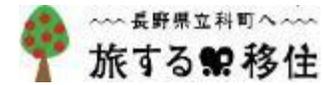


シナジーの発生

フィールド >
地域課題 >
人材提供 >

< 実証実験
< 事業協力
< 業務発注

関係性の構築



移住の総合支援



貸SOの設置運営



テレワーク移住のおためし支援



新しい働き方
実践者・企業の誘致

雇用創出型テレワーク

どんな住民も町内で柔軟に働くことを応援

企業進出型テレワーク

都会で働く方々が立科町で働くことを応援

立科 WORK TRIP とは 平成29年度(2017)から実施

立科町内（主に白樺高原エリア）にある
ホテルやペンションに
仕事ができる環境と機材を用意して
会社の仲間やプロジェクトメンバーに
利用（宿泊/滞在）してもらう町の施策。

ワークマシマシ！
成果ガッツリ！

想定した利用シーン

開発合宿

オフサイトミーティング

チームビルディング

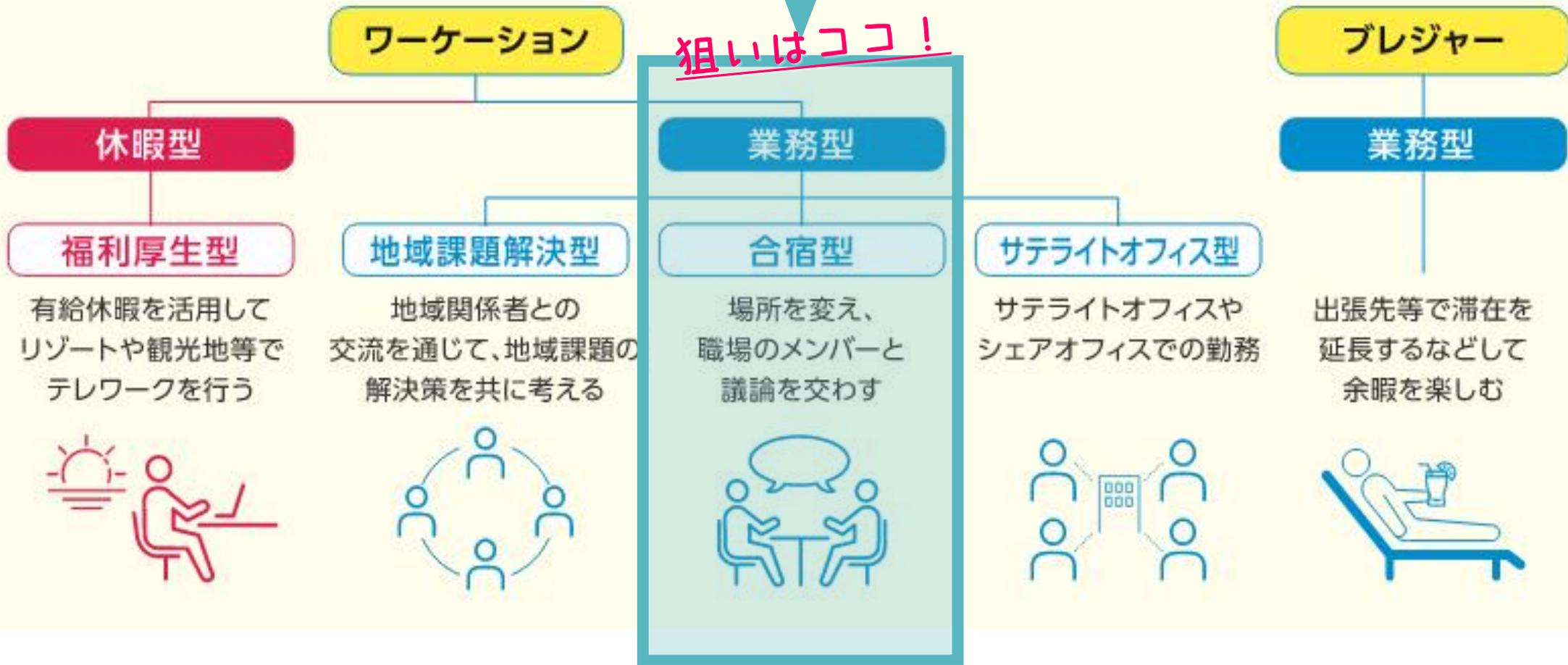
アイデアソン/ハッカソン

ワーケーション



ワーケーションの分類

実施形態(イメージ)



立科 WORK TRIP の受入実績

開発合宿・オフサイトミーティング受入実績

個人のワーケーションや家族連れワーケーション(バケーション的なもの) をのぞく

4月~7月 / 9~11月の合計6ヶ月



立科 WORK TRIP の企業メリット



普段よりも2、3週間分進んだ気がするという言葉が出たのは直接会わないとできないコミュニケーションがあるということを再認識できたから。

クリエイションライン株式会社様



心と頭がほぐれた状態で仕事に向き合って新しいアイデアを創出することができるからとてもいい。

株式会社シンソーラス様

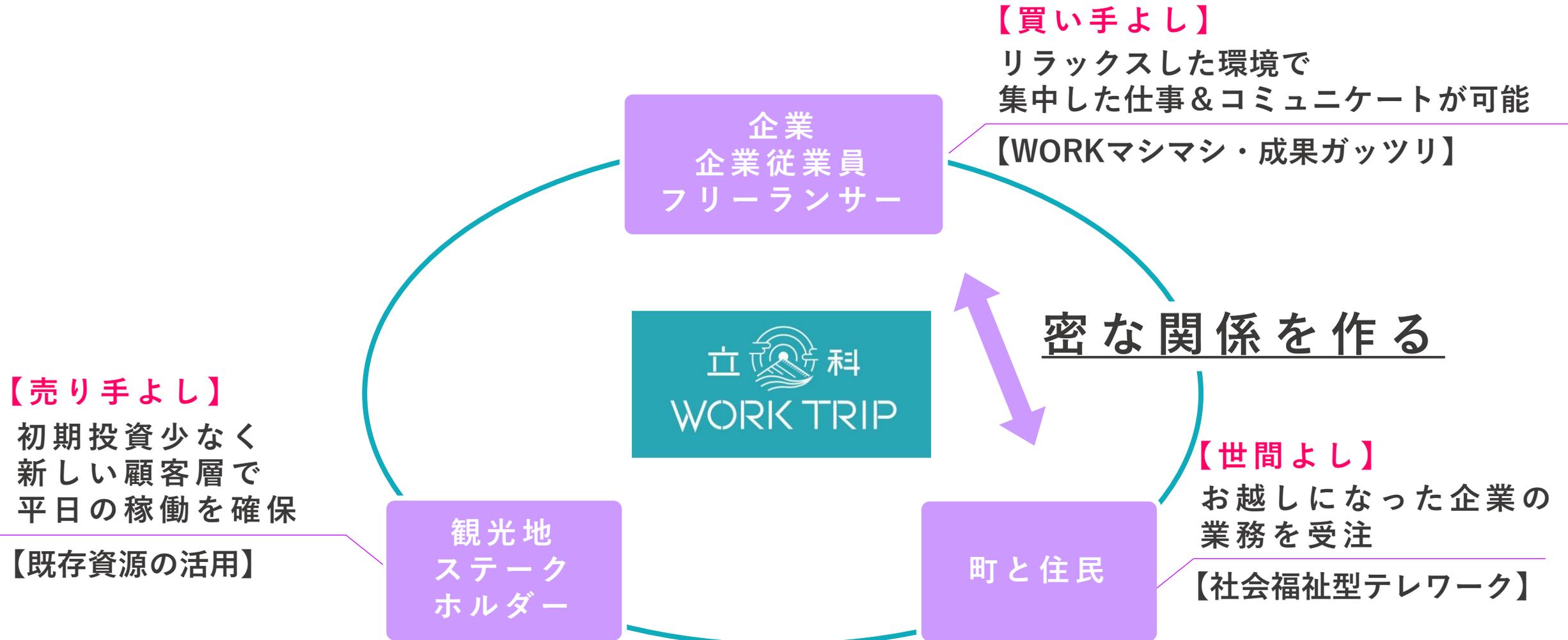


リモートだとやりにくいコミュニケーションが取れたというのがすごくよかった。チームで合宿みたいな感じでこういう所に仕事に来るのはいいんじゃないか。

株式会社コンセント様

企業様が【立科 WORK TRIP】を利用することの **効果を実感!**

【三方よし】の立科WORK TRIP



【三方よし】が実現できる可能性

株式会社リリーホールディングス様との事例



LillyHoldings



立科町テレワークセンター

2021年3月 開発部門が立科町でワーケーション実施

立科町の住民ワーカーへ業務発注開始

副社長と副町長のトップ会談を実施



【買い手よし】



LillyHoldings

- ・ 人手の確保
- ・ コア、新規業務への集中
- ・ 社会貢献の事例

【世間よし】

立科町テレワークセンター

- ・ 新規業務の受注
- ・ 企業との協働事例



株式会社ミライト・ワン・システムズ様との事例



株式会社ミライト・ワン・システムズ

✕ 当地ホテル



✕ 立科町テレワークセンター

2022年5月 役員が視察され、オフサイト施設としてホテルと法人会員契約
その後、オフサイトMTGで当町滞在多数
立科町の住民ワーカーへ業務発注開始

【買い手よし】

- ・ 人手の確保
- ・ コア業務への集中

【売り手よし】

- ・ 法人契約獲得
- ・ 平日の稼働増加

【世間よし】

- ・ 新規業務の受注

企業進出型テレワークを入口とした地域雇用創出の好事例

どこにいても 誰もが働ける時代を立科町から

田舎だから仕事がない。都会にいないと仕事ができない。

そんな常識はもう終わりにしてどこにいてもだれもが働ける時代へ。

立科町はテレワークという方法で地方の新しい働き方に挑戦しています。



立科町社会福祉型テレワークに関する資料について

立科町テレワーク推進会議（会議資料、議事録）

<https://www.town.tateshina.nagano.jp/0000001177.html>

平成29年度(2017年)からの会議資料と議事録を掲載



雇用創出型テレワーク

立科テレワークセンター

<https://tateshina-telework.jp/>



企業進出型テレワーク

立科 WORK TRIP

<https://work-trip.com/>

